

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2023年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：41,872人、高齢者人口：14,034人、高齢化率：33.5%

【歴史・地理】

庄内圏域は豊中市の南の端に位置しており、北は名神高速道路、南は神崎川、西は旧猪名川、東は天竺川に囲まれた平地である。地区の東側を阪急宝塚線と国道176号線が、西側を阪神高速11号池田線が南北に貫いている。大阪都心から近いこと、高度経済成長期に都市基盤が未整備のまま木造賃貸住宅などが集中して建築され、急速に市街化が進行した。そのため、道路・公園の未整備、古い木造住宅や文化住宅が多いなど、災害時に甚大な被害が発生する恐れがあり、住環境や防災上の課題が多い地域である。最近では、古い木造住宅を解体して、新たにマンションや戸建住宅に建て替えるケースが増えている。中東部の庄内駅周辺には豊南市場や大型スーパー、駅前商店街等があり、人通りが多い地域である。南西部エリアは中小の工場が多い地域で、スーパーや商店が少なく、交通の便も悪いこと、高齢者にとっては不便な地域である。北東部の野田校区には大阪音楽大学やオペラハウス、文化ホールなどがあり、文化的な側面もある地域である。南部千成校区にはファミリー向けの大型マンションが複数建っているため、高齢化率が低くなっている。

【学校再編】

北部の3つの小学校と2つの中学校が統合されて、新しく9年制の庄内さくら学園がR5年4月に開校した。南部においても、3つの小学校と1つの中学校が統合される予定になっている。これにより、廃校となった多くの学校跡地をどう活用するかによって、庄内の街が今後大きく変わる可能性がある。

【医療・介護資源】

庄内圏域は高齢者人口が多く、介護認定率も高いこと、他の圏域と比較して、介護保険事業所が多い地域であるが、昨今はヘルパーや介護支援専門員が不足しており、閉鎖する事業所も多い。医療機関は庄内駅周辺に集中しており、阪神高速11号線より西側の地域には医療機関がひとつしかなく、交通の便も悪いこと、高齢者が医療につながりにくい環境となっている。地域の中核病院である上田病院が他圏域に移転したが、今のところ大きな混乱は起こっていない。訪問診療専門のクリニックが開設されるなど、新しい動きもある。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

- 公的な機関として、公平・公正・中立を遵守する。
- できるかぎり、現場に足を運び、実際に目で確かめたうえで支援を行う。
- 利用者一人一人の価値観を尊重し、本人の意向に基づいた支援を行う。

【特に力を入れて活動している点】

- 認知症になっても安心して暮らし続けることのできる地域づくりに向けて、地域住民の協力のもと、オレンジカフェを4ヶ所開設し、当事者や家族、地域住民が気軽に参加できる場づくりを行っている。また、一般向けの認知症サポーター養成講座を2回、子どもを対象とした認知症サポーター養成講座を2回実施した。
- コロナが5類になり、地域活動が再開できるようになったため、地域で開催されているサロンに講師として8回参加し、多くの地域住民と関わる事ができた。
- 介護予防や消費者被害防止、介護保険制度説明等の情報を盛り込んだ独自の新聞を作成し、夏と冬の2回、合計11,000世帯に職員が直接ポスティングを行った。

【活動の中での課題やその解決策】

- 独居で家族がいない、もしくは家族がいても支援を受けられない高齢者が今後ますます増加する傾向にある。医療受診・入院や服薬管理、行政の各種手続きや支払い等について、どのように支援していけばよいか。
⇒民生委員、社協、介護支援専門員、福祉事務所と協議を行い、それぞれができることとできないことを明確にしたうえで、役割分担を行い、不足している社会資源・機能については市に報告していく。

【その他】

フレイル処方箋事業に積極的に取り組み、31名の高齢者宅へ訪問して、介護予防の情報提供を行った。

総評

【特徴的な取組内容】

- センター独自の新聞を作成し、情報提供、啓発活動の主軸とし、個別の配布対象を広げ毎年継続していることで、地域を細かに見ることができ、新たな課題の発見や現状把握を継続されています。地域のイベントや子ども向けの行事等にも参画し、地域とのつながりや地域ニーズの発掘にもつながられています。

●障害者相談支援センター・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と、介護支援専門員との交流会を開催し、介護支援専門員が複合課題への取り組みやリハビリテーション専門職との連携による自立に向けた計画の策定につなげられるよう支援されています。

●学校教育の場での、認知症サポーター養成講座の開催が実現し、圏域内幅広い世代への認知症啓発活動の場が広がっています。動画や寸劇を交え、伝わりやすいように工夫されています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

●既存の訪問先や協力先に留まらない、社会資源を発掘し、新たなニーズや課題把握、取り組みの拡充に期待します。

●認知症カフェのニーズ拡大に答えられる、開催や内容の拡充に期待します。

●地域でのさまざまな展開に期待がもてる一方で、関係機関、地域住民等とより一層連携を深めた、持続可能な体制、方法での実施が望まれます。